

オオクチバス(*Micropterus salmoides*)に係る情報及び評価(案)

1. 評価ランク

2. 原産地 北アメリカ

3. 定着実績 ほぼ全国的に広範囲に分布

4. 評価の理由

- ・北アメリカ原産であるため冬の低水温にも耐えることが可能で、かつ繁殖力が旺盛であり、日本各地に広く侵入・定着している。
- ・魚食性が強く、日本各地で本種によるとされる在来種の減少などを含む魚類群集構造の変化が報告されており、在来の生態系に被害を及ぼすおそれがある。
- ・希少種を含む魚類や水生昆虫、甲殻類等のさまざまな動物を捕食することから、各地で問題とされ対策がとられている。
- ・一方、釣魚として人気魚種であり、4湖沼で漁業権魚種として指定されるなど、盛んに釣りが行われている。
- ・これ以上の分布拡大を防ぐことについては社会的合意がなされているが、現在釣りが盛んに行われている一部水域では引き続き釣りを認めるべきであるとの強い主張がある。

5. 被害の実態(代表的な事例)

(1) 生態系に係る被害

- 環境省により選定された「日本の重要湿地 500」に取り上げられた水域のなかで気候条件や塩分条件などにより定着の可能性が想定される 259 箇所のうち、少なくとも 69 箇所(27%)に侵入している。(文献)
- 京都府深泥池ではオオクチバス等の侵入後に在来魚の種数が減少したり、個体数が激減したりしている。また、在来種の減少により生物相に変化が生じている。(文献)
- 宮城県鹿島台のため池では、オオクチバスが侵入したあとに、絶滅危惧種のシナイモツゴが確認できなくなっている。(文献) また、秋田県の一部のため池ではオオクチバスが個体数や重量で優占し、いくつかの在来魚種の生息が確認できなくなっている。(文献)
- ラムサール条約登録湿地の宮城県伊豆沼・内沼では、オオクチバスの侵入・定着後に、希少なゼニタナゴやメダカ、ジュズカケハゼが急減し、いくつかの魚種では全長分布が大型個体に偏るなど、著しい魚類群集構造の変化が確認されている。(文献) 捕食によるトンボ類への影響も懸念されている。(文献) また近年では、その強い捕食圧により

生物群集が様々な間接的な影響を受けている可能性も指摘されている。(文献)

(2) 農林水産業に係る被害

- 捕食による漁業被害の可能性が示唆されている。(文献)

6. 被害をもたらしている要因

(1) 生物学的要因

- 湖沼やため池、河川の中下流域に生息する。
- 成長が早く、2年で体長20cm以上に達する。
- 全長2~3cmの稚魚になると、他魚種の仔稚魚も捕食ようになる。成魚は主に魚類や甲殻類、水生昆虫を捕食する。
- 北米での報告によると、雌一匹当たりの抱卵数は2,000~145,000個であり、体サイズの大きな雌ほど多くの卵を産む。
- 産出された卵及び孵化後3週間くらいまでの仔魚は雄親に保護される。

(2) 社会的要因

- 釣魚として人気種であり、各地で意図的な放流が行なわれてきた可能性も指摘されている。

7. 特徴ならびに近縁種、類似種について

- 全長30~50cm。上あごの後端が眼の後縁の直下よりも後方に達する。体側から背にかけて不規則な暗斑がある。腹側は黄味を帯びた白色。

8. その他の関連情報

- 各学会、団体などで駆除、保護の要望書が最も多く提出されている魚種である。
- 水域によっては生体での持ち出し禁止、再放流禁止の対応がとられている。
- 沖縄を除く46都道府県の内水面漁業調整規則において、移動禁止の措置がとられている。
- 世界規模で猛威をふるっている侵略種であり、イギリスや韓国では生体の持込が禁止されている。
- 芦ノ湖、山中湖、河口湖、西湖では漁業権魚種(第5種共同漁業権)となっている。
- 日本のバス釣り人口は300万人にも達すると言われ、各地でバス釣りが行われている。
- 一部の鑑賞魚店では販売されている。

9. 主な参考文献

川那部浩哉・水野信彦・細谷和海(編・監)(2002)山溪カラー名鑑 日本の淡水魚(改訂版). 山と溪谷社. 719 pp.

- 日本生態学会(編)、村上興正・鷺谷いづみ(監)(2002)外来種ハンドブック. 地人書簡. 390 pp.
- 環境省(編)(2004)ブラックバス・ブルーギルが在来生物群集及び生態系に与える影響と対策. 財団法人 自然環境研究センター. 226 pp.
- 全国内水面漁業協同組合連合会(1992)ブラックバスとブルーギルのすべて. 外来魚対策検討委託事業報告書. 221 pp.
- 日本魚類学会自然保護委員会(編)(2002)川と湖の侵略者ブラックバス - その生物学と生態系への影響. 恒星社厚生閣. 150 pp.
- 横川浩治・中井克樹・藤田建太郎(2004)近年の琵琶湖におけるフロリダバスの大規模な侵入. 2004年度日本魚類学会年会講演要旨. p. 31
- 安部倉元・堀 道雄・竹門康弘(2003)京都市深泥池における魚類相の変遷と外来魚除去による個体群抑制効果. 関西自然保護機構, 25(2): 79-85. 須藤篤史・高橋清孝(2003)ブラックバスの食害の実態(伊豆沼をはじめとした県内湖沼河川の4事例). 第2回伊豆沼・内沼ゼニタナゴ復元プロジェクト会議 講演要旨 杉山秀樹(2003)オオクチバス駆除の現場から(連載). 広報ないすいめん, 32: 2-9. 杉山秀樹(2003)オオクチバス駆除の現場から(連載). 広報ないすいめん, 33: 5-14. 高橋清孝(2002)オオクチバスの魚類群集への影響 - 伊豆沼・内沼を例に. 川と湖沼の侵略者ブラックバス - その生物学と生態系への影響[日本魚類学会自然保護委員会(編)]. 恒星社厚生閣. p. 47-59
- 荻部治紀(2002)オオクチバスが水生昆虫に与える影響 - トンボ捕食の事例から. 川と湖沼の侵略者ブラックバス - その生物学と生態系への影響[日本魚類学会自然保護委員会(編)]. 恒星社厚生閣. p. 61-68
- Maezono Y, Miyashita T (2003) Community-level impacts induced by introduced largemouth bass and bluegill in farm ponds in Japan. *Biological Conservation*, 109: 111-121.
- Maezono Y, Miyashita T (2004) Impact of exotic fish removal on native communities in farm ponds. *Ecological Research*, 19: 263-267.
- 嶋田哲郎・新東健太郎・高橋清孝・渡部正弘・アロンポーマン(2003)オオクチバスの急増にともなう魚類、二枚貝群集の変化が水鳥群集に与えた影響. 第2回伊豆沼・内沼ゼニタナゴ復元プロジェクト会議 講演要旨
- 長野県水産試験場(2002)ブラックバス問題を考える - ブラックバス等の湖沼河川への影響調査書. 43 pp.